

## ベトナムのビール・アルコール飲料業界の今後

「ベトナムはビールが安い」という言葉は、ベトナムに行ったことのある人からよく聞く言葉ではないでしょうか。夜になると仕事が終わった人たちがビアホイという生ビールを提供する居酒屋に集まり、賑やかに乾杯する様子がよく見られます。2023年12月に日本の麒麟ホールディングスが発表した2022年の世界のビール消費量統計によると、ベトナムは第7位で528万キロリットル（1位中国・4,203万キロリットル、2位米国2,037万キロリットル、10位日本429万キロリットル）と、世界でもビール消費量の多い国であることがわかります。ベトナム・ビール・酒・飲料協会によると、ベトナムのアルコール飲料市場のうちビールの占める割合は98.6%です。

このように国民にも大人気のビールですが、2023年に政府が飲酒運転の取り締まりを強化する法令を施行して以来、路上での警察による取り締まりが厳しくなり、すっかりバイクでビアホイに来る人が減ってしまいました（日本ではあり得ませんが、以前はバイクでビアホイに来ることは当たり前のことだったのです）。コロナ禍で大打撃を受けた後、ようやく回復へ向かっていた飲食業界ですが、この取り締まり強化に加えて、不景気による国民の支出控えも影響し、2023年のベトナムのビール業界の収益は前年比11%減、利益は23%減と大幅に減りました。それだけでなく、今後ビールやアルコール飲料にかかる特別消費税の増税が予定されています。財務省の最新の草案によると、アルコール度数20度以上のアルコール飲料は現在65%から2023年までに90%または100%に、20度未満のアルコール飲料は2026年から2030年にかけて60~70%に、ビールは現在の65%から2023年までに90%または100%に増税されます。この増税により、2026年にはビール・アルコール飲料の販売価格が現在より20%上昇し、その後年間2~3%ずつ上昇することが予想されています。この政策は、ビール・アルコール飲料の消費量を抑えることで消費者の健康被害を抑制し、飲酒運転などの撲滅を図ることを目的としており、世界銀行はビール・アルコール飲料に155%の税率で課税することを提唱しています。同行によると、2008年~2022年までのベトナムのビール・アルコール飲料消費量は177%増加、一人当たりの消費量は142%増加し、アルコールによる死亡者数や疾患患者数は急激に増えました。2010年~2018年でビールの特別消費税は45%から65%に上昇しましたが消費を抑制する効果はなかったと結論づけています。

財務省の提案を受け、ベトナムの各大手ビールメーカーは急激な増税は会社や雇用者に対する影響が大きすぎるとして、増税決定後に2~3年の準備期間を設けるべきだと提議しています。ちなみに、ビアホイで提供される生ビールの値段は1杯10,000~15,000ドン（約60~90円）で、缶ビール（330ml）1本12,000ドン（約70円）、瓶ビール（500ml）1本15,000ドンと、日本と比べて安すぎることは否めません。

### 大阪産業局 ベトナムビジネスサポートデスク

#### 株式会社 NC ネットワーク (ベトナム: NC Network Vietnam JSC.)

日本事務所：東京都台東区東上野1丁目14番5号 ユーエムビル8階

ベトナム事務所：8, No.5 Street, Him Lam, Tan Hung Ward, District 7, Ho Chi Minh, VIET NAM